

【学校教育目標】 夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒

第 9 号

令和 8 年 1 月 1 日

|     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 生徒数 |       |       |
| 1 年 | 68 名  | 2 学級  |
| 2 年 | 83 名  | 3 学級  |
| 3 年 | 83 名  | 3 学級  |
| 4 組 | 3 名   | 1 学級  |
| 5 組 | 3 名   | 1 学級  |
| 合計  | 240 名 | 10 学級 |



TEL 048-768-5454

心のホット相談室 TEL 048-764-1110

<http://kuronishichu.style.coocan.jp/>



## ワールドシリーズ第 7 戦

寒い日が続きますが、雲一つ無い青い空に雪をかぶった富士山が晴れ晴れと映える日が、前途洋々の 1 年を感じさせてくれています。明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年 1 月 1 日に行われたワールドシリーズ第 7 戦はまさに球史に残る試合でした。3 勝 3 敗で迎えた第 7 戦。ブルージェイズは 1 点差でリードしたまま最終回のドジャースの攻撃を迎えます。この回をゼロに抑えればブルージェイズは 3 2 年ぶり 3 回目の優勝を手に入れることができます。先頭打者が打ち取られワンアウト。歓喜の瞬間まで後アウト 2 つ。ブルージェイズファンの優勝への確信がさらに高まったところでした。が、その夢を打ち砕くようにドジャースのロハス選手がホームランを放ち同点。「し〜ん」と静まりかえるブルージェイズのホームグラウンド。が、後続を断ち同点のまま 9 回裏ブルージェイズの攻撃でワンアウト満塁、一打サヨナラのチャンス。ドジャースの投手は山本由伸投手。ファーボールもデッドボールも外野への犠牲フライも許されない厳しい状況。その中、左打者の打球はセカンドへのゴロ。二塁を守るロハス選手は体制を崩しながらも捕球し、すばやく体制を整えてホームヘストライク送球。当然内野ゴロでスタートを切っていた三塁走者でしたが間一髪アウト！キャッチャーは身体を伸ばしてフォースアウトにしましたが一瞬足がホームベースから離れて踏み直した様子もありブルージェイズはリクエスト。リプレイ検証の結果、判定は覆らずアウト。惜しくもサヨナラならず。前日の試合で外野フライで走者が飛び出しダブルプレーで試合終了という敗戦をブルージェイズはしました。同じように痛烈なライナーでダブルプレーになることを恐れ、ベンチの指示で三塁ランナーのリードを小さくさせていたようで、それも影響したでしょう。後数センチというところで優勝はおあずけとなります。

しかしなおツーアウト満塁のチャンス。山本投手も連投の疲れを抱えながらも懸命の投球。その投球を次の打者は捉え、ボールは快音を残して左中間へ。抜ければもちろんブルージェイズのサヨナラ勝ち。この回の途中にセンターの守備についていたパヘス選手と、レフトを守るキケ・ヘルナンデス選手が必死にその打球を追走。左中間の深いところ、パヘス選手はキケ選手と激突しながらもその打球を執念でダイレクトキャッチ！ドジャースはパヘス選手の好プレーで見事ピンチをしのぎ、延長戦へと突入します。

後日、SNS トーク番組で 2 人にこのような会話が合ったそうです。パヘス選手と交錯したキケ選手はしばらく起き上がれずグラウンドに倒れこんでいました。パヘス選手は起き上がってこないキケ選手に声をかけました。「おい、大丈夫か？」と聞くと、キケ選手はやけに球場が静かなので試合が終わったものと思いつつも、「そんなことではどうでもいい。それよりもお前、ボールは取ったのか？」と聞き、「ああ、取ったさ。」と、パヘス選手が答えるとキケ選手はすくっと立って「イエ〜〜！！」と大声で叫びながら大喜びでいっしょにベンチに戻ったということです。こんな緊迫した場面でこのような会話ができるのは、その場面で試合に出場しサヨナラの打球を必死に追いかけたパヘス選手とキケ選手の 2 人だけです。2 人にとって最高の会話だったでしょう。

あわやサヨナラ負けの大飛球をキケ選手と交錯しながら、もぎ取ったパヘス選手は、ご存じの通り、山本由伸投手がノーヒット・ノーランまで後 1 人という試合でライトを守っていた選手です。最後の左打者にライトへホームランを打たれノーヒット・ノーランは達成ならず！でしたが、その時にライトを守っていたパヘス選手が平然と打球を見送ったことに対し、打球がフェンスぎりぎりスタンドに入ったこともあって、「ライトがフェンス際でジャンプすれば、取れたのではないか。」や「せめて取れなくてもフェンスに激突して打球を捕ろうという姿勢は見せて欲しかった。」等の批判を浴びてしまいました。実際にフェンス際まで打球を追ってジャンプをすれば、その打球が取れて山本由伸投手のノーヒット・ノーラン達成となったかどうかは、わかりません。山本由伸投手はパヘス選手に対して負の感情は全くないと思いますが、パヘス選手は気にしていたのでしょうか。そのリベンジという気持ちがあったかどうかはわかりませんが、今度は逆にパヘス選手が山本由伸投手を見事に助けた形となったのは事実です。手に汗握る 9 回裏の攻防には、たくさんのドラマがあり紙一重のところでは勝敗が喫する醍醐味がふんだんに盛り込まれていました。

ワールドシリーズ第 7 戦は 9 回で決着がつかず、延長戦へと突入して、続きをまた書きたいところですが、紙面の関係で、また機会がありましたら書かせていただくことでご容赦ください。

保護者の皆様、地域の皆様、旧年中大変にお世話になりました。新年も本校の教育活動に対して、変わらぬご理解とご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。